

## 第2章

# 各学年の総合人間科の取り組み

## 第1節 中学1年生

### さまざまな考え方を知る機会としての『生き方を探る』

今村 敦司・飯島 幸久  
佐藤 俊樹・仲田 恵子  
渡辺 武志

【抄録】 SSH全体目標を支えるひとつの柱が総合人間科の授業である。この授業は、キャリア形成をすることにより、全体の目標のうちの、主にE（自分の生き方について考える力）をつけさせるプログラムである。しかし、プログラムによってはA～Dの力をねらうことも十分可能である。中学1年生では、「生き方を探る」を大テーマに、様々な人から話を聞く機会を設け、多様な考え方の存在に気づくことと、総合人間科を6年間学ぶ上での基本的事項を押さえるプログラムを展開した。

【キーワード】 生き方 多面的な観察 総合人間科の基礎

#### 1. テーマと目標

##### (1) テーマ 生き方を探る

—学びあいから創る自分の未来—

##### (2) 学年の目標

SSH全体の目標は細かく分けると、

- A 科学に対する知的好奇心
- B 理解し・考え・発表する力
- C 人や社会のために学習内容を活用する力
- D 大学での専門的な研究につながる学びの力
- E 自分の生き方について考える力

の5つに分類されている。これらの力について、各学年とも今年度の総合人間科のプログラム目標と合致するものを選び出し（主に中1はB、D）、評価基準と方法を設定する形で評価を行った。中学1年生の評価について以下に記す。

今年度の総人の学年目標、伸ばしたい力

- ・自分と同年齢の人から大人まで、親しい人から初めて会う人まで、様々な人の考えを聞くことにより、多様なものの見方の存在を知る。（多面的な観察力）

→A～Eの力に照らすと

（D：大学での専門的な研究につながる学びの力）

- ・総合人間科を学習するにあたっての基本的な学習技能の習得

→A～Eの力に照らすと

（B深く理解し、考え、発表する力）

#### 2. 学習方法

個人研究による学習を行う。特に、さまざまな人からいろいろな話を聞く機会を多数設けることにより、多様な考えを知る機会を増やす。その中で、対話能力や分析力とまとめる力を付けさせたい。インタビューは、身近な存在としての友達から、卒業生、教育実習生、保護者の方、高校1年生、話を聞くプロ、社会人というように、段階を経て遠い存在の人にしていくことにより、緊張しすぎることなくフィールドワークができるように配慮した。中間発表会とまとめの発表会といった発表会を2回設けたのも、プレゼンテーションの経験を何度もすることによる工夫の積み重ねを促したいという考えからである。最後に高校3年生にインタビューさせるのは、本校生徒としての成長した姿を生徒に見せたいからである。

#### 3. 活動内容

- 第1回 4月17日（木）  
ガイダンス・インタビューの仕方の説明と練習
- 第2回 4月24日（木）  
友人へのインタビューとその紹介
- 第3回 4月30日昼  
先輩へのインタビュー
- 第4回 5月8日（木）  
インタビュー振り返り
- 第5回 5月15日（木）

- 実習生・卒業生・保護者へのインタビュー準備
- 第6回 5月29日(木)  
実習生・卒業生・保護者へのインタビュー
- 第7回 6月2日(月)  
インタビュー結果の発表準備
- 第8回 6月5日(木)  
インタビュー結果の発表準備
- 第9回 6月12日  
インタビュー結果の発表
- 第10、11回 7月3日、7日(月)  
興味のある職業について調べる
- 第12回 9月11日  
電話のかけ方の学習と下書き
- 第13回 9月25日  
アポ取り・質問作成
- 第14回 10月2日  
アポ取り完了・質問作成・経路確認
- 第15回 10月9日  
依頼状下書き
- 第16回 10月23日  
依頼状完成
- 第17回 10月30日  
FWの進め方学習
- 第18回 11月6日  
FW
- 第19回 11月10日(月)  
お礼状下書き
- 第20回 11月13日  
お礼状完成・送付
- 第21回 11月20日  
FW発表会準備
- 第22回 12月10日  
FW発表会
- 第23、24回 1月22日、2月5日  
研究集録執筆
- 第25回 2月19日  
研究集録清書完成
- 第26回 3月5日  
中1が高3を囲んで話を聞く会
- 第27回 3月12日  
1年間のまとめ

#### 4. 評価について

##### (1) 評価の枠組み

今年度の中学1年生の総合人間科で、SSH全体目標A～Eの力を付けることができるプログラムは以下の通りである。

- ・友達へのインタビュー

- ・高1の先輩へのインタビュー
- ・卒業生・実習生・保護者へのインタビュー
- ・FWでのインタビュー
- ・中間発表会
- ・FW発表会

それぞれのプログラムで、生徒がどのようになれば、その目標が達成されたことになるか(評価規準)については、以下の通りに設定した。

- ・インタビュー時の質問内容が知りたい目的に応じて設定できること
- ・インタビュー時につっこみの質問が臨機応変にできること
- ・発表の内容に、多面的なものの見方や深い考察が見られること

アンケートを行い、その分析から目標の達成度を判断することにした。(評価手段)

##### (2) 振り返りアンケート内容とその結果

振り返りアンケートは、質問についてその答えを(5あてはまる 4 ややあてはまる 3 どちらともいえない 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない)から選んでもらい、具体的にそのように感じる出来事を記述してもらった。質問内容と結果は以下の通りである。

- 問1 ①インタビューでは、自分の目的を果たせるようになった。
- ②インタビュー時に聞きたいことをどう質問すればよいか、わかるようになった。
- ③インタビュー時に聞いた質問について、その場に応じた更に深いつっこみの質問ができるようになった。
- 問2 ①発表原稿を書く際、今までの経験や調べた内容など、様々なことをふまえて自分の考えをまとめることができるようになった。
- ②発表では、自分の考えていることを正確に伝える原稿を書けるようになった。
- ③発表では自分の思うことをあわてずにきちんと話すことができるようになった。
- ④発表のための掲示物を作る際、わかりやすくするために工夫を凝らすことができるようになった。

問5 総合人間科の授業で一番印象に残っているプログラムと、印象に残った理由を書いてください。

問6 1年間総合人間科の授業を受けた感想を書いてください。

問7 あなたが自分自身の総合人間科の授業の評価をつけるとしたら、どうしますか？(A:とてもよく頑張った、B:頑張った、C:あまり頑張らなかった)の基準で評価してください。

#### 問1、2の結果

	1あてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらでもない	4ややあてはまる	5あてはまる	合計 ／ 平均
1①度数	0	4	10	35	16	65
割合%	0	6	15	54	25	3.97
②度数	0	4	17	26	18	65
割合%	0	6	26	40	28	3.89
③度数	1	6	12	29	17	65
割合%	2	9	18	45	26	3.85
2①度数	1	4	11	27	22	65
割合%	2	6	17	42	34	4.00
②度数	1	9	17	28	10	65
割合%	2	14	26	43	15	3.57
③度数	5	13	16	18	13	65
割合%	8	20	25	28	20	3.32
④度数	3	7	13	18	24	65
割合%	5	11	20	28	37	3.82

#### 問5の結果(印象に残ったプログラム)

- ・フィールドワーク (21人、32%)
- ・高3を囲んで話を聞く会 (17人、26.2%)
- ・フィールドワークのアポ取り (11人、16.9%)
- ・友人へのインタビュー (4人、6.2%)
- ・研究発表会 (4人、6.2%)
- ・依頼状書き (3人、4.6%)
- ・保護者へのインタビュー、  
大学生にインタビュー、  
雑誌記者に聞くインタビューのこつ  
(各1、各1.5%)

#### 問6の結果(主な感想)

- ・やっていると将来が楽しみになってきた。
- ・小学校のと気にできなかったことができて実感がわいている。
- ・自分の進路について考えなきゃいけないと感じることができた。
- ・今まであまり夢について考えることはなかったが、総人は自分に夢を考えさせ、近づけさせ、夢の大切さを教えてくれた。
- ・インタビューをして人と接することは、自分の将来

なりたい職業につながると思った。

#### 問7の結果(自己評価)

(A:とてもよく頑張った、B:頑張った、C:あまり頑張らなかった)

- ・とてもよく頑張った: 17人 (26.2%)
- ・頑張った: 43人 (66.2%)
- ・あまり頑張らなかった: 3人 (4.6%)

#### 4. 成果と課題

どの項目も平均値が3を越えている。自分の中で様々な力が付いてきているという実感があるということは言えそうである。

特に「発表原稿を書く際、今までの経験や調べた内容など、様々なことをふまえて自分の考えをまとめることができるようになった。」という項目は、平均値が4.0、「インタビューでは、自分の目的を果たせるようになった。」は、3.97、「インタビュー時に聞きたいことをどう質問すればよいか、わかるようになった。」は3.89、「インタビュー時に聞いた質問について、その場に応じた更に深いつこみの質問ができるようになった。」は3.85と高く、インタビューを多数経験した実績と、中間発表で発表原稿を一度書いた経験が生かされていることがうかがわれる。

相対的ではあるが、あまり数値が高くないのが、「発表では、自分の考えていることを正確に伝える原稿を書けるようになった。」の3.57、「発表では自分の思うことをあわずにきちんと話すことができるようになった。」の3.32である。実際自分が発表する際の自信のなさが出ている。この原因が経験不足によるものなのか、調べたことにまだ自信がないのかわからないが、一生懸命事前学習をした生徒はこの数値が高いことから、調べたり話を聞いたりしたことをきちんと理解し、うまく自分の言葉で表現できるかが鍵だと考えた。調べたり聞いたりしたことをそのまま報告するのではなく、自分でしっかり理解する過程が必要なのかもしれない。

主な感想には自分の将来について考える記述が多かった。この授業がねらっているSSH目標のE(自分の生き方について考える力)が付いてきている現れと考えて良いであろう。今後は、もう少し客観的に付いた力を測定できる評価を考えていきたい。

5. テーマとフィールドワーク先 (A組)

テーマ	F W 先
飼育員	名古屋港水族館
食品関係のバイオテクノロジー	食品工業技術センター
スポーツ新聞記者になるには?	中日スポーツ名古屋本社
外交官について	在カナダ領事館 (ナカトウ丸の内ビル 6F)
電車の運転士になるには	JR東海尾張一宮駅
声優	代々木アニメーション学院
TVプロデューサー	CBCクリエイション (番組プロデューサー)
スポーツ医学	名古屋スポーツクリニック
TVプロデューサー	CBCクリエイション (番組プロデューサー)
新薬開発	名古屋市立大学創薬生命科学
幼稚園教諭	わかば幼稚園
人の健康に携わる仕事	中日調剤薬局八事日赤前店
教育	愛知中・高等学校
幼稚園教諭について	わかば幼稚園
TV番組制作	NHK名古屋放送局広報部見学係
介護士	名古屋市千種区福祉協議会
夢のあるお仕事	宮田写真館
子どもと関わる仕事	井上医院 (小児科)
インダストリアルデザイナー	名古屋工業大学17号館326号室
コンピュータプログラマーになりたい	名古屋大学工学研究科 電気電子情報工学
自動車エンジンの開発	DENSO (エンジン開発)
ラーメン店経営	麵屋蔵斗
自動車エンジニア	名古屋工業大学国際自動車 工学研究センター
矯正歯科医	二村医院 (矯正歯科医)
医学とは	伊藤内科〈尾頭橋〉(医師)

テーマ	F W 先
司書	鶴舞中央図書館第1係放資課
警察官・刑事	瑞穂警察署
検察官	名古屋高等検察庁企画調査課
建築デザイナーについて	ダイワハウス名古屋支社 管理部総務課
アナウンサーの仕事	メ〜テレ総務部
介護士	愛泉館
	未定
水族館の飼育員	名古屋港水族館
～養護学校の先生～ 障がいのある子どもたち	名古屋市立天白養護学校
医学	名古屋共立病院
保育士について	わかば幼稚園
建築士	ダイワハウス名古屋支社 管理部総務課
産婦人科医	川合産婦人科医院 (竹中さん自宅)
デザイン書道作家	鈴木様方
検察官	名古屋高等検察庁企画調査課

### 5. テーマとフィールドワーク先 (B組)

テーマ	F W 先
医者の仕事	名古屋共立病院
プログラマ	富士通オープンカレッジ 名古屋駅前校
学芸員	名古屋市博物館
建築家になるために	アールアンドエス設計工房
おもしろいライトノベル・小説を書くには?	東海学園人文学部人文学科
医師の職業	そぶえ内科クリニック(小児科医)
ロボット開発研究の最先端で働く方を知る	名古屋大学工学研究科機械理工学専攻電子機械工学分野
天体物理学者	名古屋大学理学部物理教室
小学校の教師	本巣市立土岐野小学校
小学校教師	名古屋市立東志賀小学校
メイクアップアーティスト	中日美容専門学校
獣医の詳しい仕事	東山動物園動物会館
鉱物博士について	名古屋大学博物館
パティシエ	FORTISSIMO H
薬の研究と開発	名城大学薬学部
考古学者	見晴台考古資料館
あこがれの弁護士って?	名古屋大学法学部
ロボット製作	名古屋大学工学部 航空宇宙工学科
建築家	アールアンドエス設計工房
小学校教員	名古屋市立富士見台小学校
外交官	中部大学国際関係学部
獣医師	一宮あいわ獣医科
医療にかかわる人々	スギヤマ薬局
生物学者について	名古屋大学環境学研究科
名古屋港イルカの飼育員	名古屋港水族館
医学	平松内科クリニック (医者)
アートセラピー ～芸術で心を癒す～	名古屋芸術大学版画研究室

テーマ	F W 先
盲導犬トレーナーになるには	中部盲導犬協会
イラストレーター	未定
小学校の先生について	長久手町立西小学校
服屋の店員	ディアブル (名鉄百貨店本館 8F)
声優	名古屋コミュニケーション アート専門学校
女性の地位向上	名古屋市地域 女性団体連絡協議会
プロ野球	中日ドラゴンズ合宿所
国際公務員について	国際連合地域開発センター 国際センタービル 6F
化学者としての生き方を探る	名古屋大学理学部A 2号館
パティシエという職業について	patisserie KITAZAKI
弁護士	日本弁護士連合会 (弁護士会館 3F 7号室)
研究者の生きがい	名古屋大学文学部
理学療法士	名古屋大学医学部保健学科